

ふくしまの
子どもたちの
未来をください。

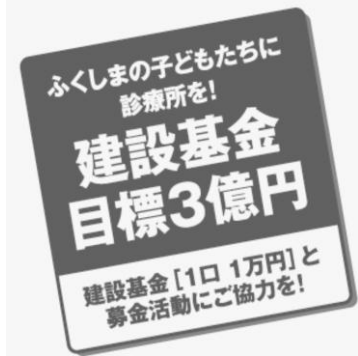


ルモット
のように
扱う医療
機関など
とても信
頼するこ
とはでき
ません。今
このとき

子どもたちを放射能から守るたまたかに心を寄せるみなさんに、福島に命の拠り所となる診療所を建設する運動へのご支援、ご協力を心から訴えます。

今、福島で切実に求められているのは、心と健康の拠り所となる診療所建設です。

福島の子もたちは放射能汚染による被ばくに日々さらされ、心身ともに息苦しい状況を半年以上も強いられています。お母さんたちの



心配も、
除染で
取り除
かれる
わけで
はあり
ません
し、子
どもた
ちを毛

に、「ひよっとしたら放射能の影響では？」と不安になったとき、すぐに相談できる診療所が身近にあればどれほど心強いことでしょう。チエルノブイリの子もたちには、甲状腺肥大とホルモン異常、貧血、頭痛、心肺機能の低下、免疫低下、加齢化の加速的進行、そしてガンの発症など、放射能被ばくによる様々な疾病が報告されています。

これまでの近代医学の概念を越えた幅広い総合的な取り組みが必要となります。

予防医学の原則に立ち、人間本来の自然治癒力を促す代替医療をも視野に入れた総合医療と、防護を念頭においた食卓、暮らしの見直しなど、いわば「生活革命」をも提案できる開かれた場が不可欠でしょう。広島、長崎の被爆者は、医療も生活も切り捨てられるなかで「人間をかえせ」の声をあげ、たたかうことで自らの命を守り、医療を取り戻してきました。

未来をつくる子どもたちが、被ばくを心配して生きなければならないことなど、絶対にあ

つてはなりません。安心して集い、何でも相談できる診療所をつくることは、みんなの団結で命を守り、医療を取り戻すたまたかにあり、すべての原発をただちに停止、廃炉にし、原発も核もない社会をつくる運動そのものです。

福島の子もたちの命と心の拠り所となる診療所建設のために、基金運動へのご協力はじめ、多大なご支援などをいただきますよう重ねて心から訴えます。

2011年12月1日

わたしたちが呼びかけます

●福島から

- 清野和彦 (元福島県教職員組合委員長)
- 佐藤幸子 (NPO法人理事長)
- 椎名千恵子 (未来を孕む女たちのこときとおかのテント村行動)
- 橋本光一 (国労郡山工場支部書記長)
- 市川潤子 (ふくしま合同労組委員長)
- 鈴木光一郎 (酪農家、ネットワーク「ゆい」福島)
- 佐々木信夫 (桜の聖母短期大学名誉教授)

「ひよっとしたら？」と不安になったとき、すぐに相談できる。

診療
被ばくから子どもたちの命と健康を守る総合医療をめざして

相談
「ひよっとしたら？」と不安になったとき、すぐに相談できる。

学習
人間本来の自然治癒力を促して、生活に健康をとりもどす

「ひよっとしたら？」と不安になったとき、すぐに相談できる。

基金&募金受付窓口

この基金&募金運動の趣旨・活動にご理解いただき、ぜひ多大なご支援・ご協力をよろしく願っています。

- 郵便振替口座… 02200-8-126405
加入者名/福島診療所建設基金
- 銀行口座… 福島銀行 本店(110) 普通預金 1252841
加入者名/福島診療所建設基金 代表 渡辺 馨

福島診療所建設委員会

連絡先/〒960-0662 福島県伊達市保原町柱田字平84 渡辺 馨
Tel.070-5476-6162
E-mail : info@clinic-fukushima.jp
URL : http://www.clinic-fukushima.jp

- 渡辺馨 (福島県労働組合交流センター代表)
- 全国の医師から
- 吉田良順 (広島高陽第一診療所所長)
 - 杉井吉彦 (本町クリニック院長)
 - 松江寛人 (がん総合相談センター所長)
 - 吉本哲郎 (熊手町クリニック院長)
 - 末光道正 (八尾北医療センター院長、八尾市議会議員)
 - 布施幸彦 (館林厚生病院医師)
- リーフレットより抜粋